

令和6年度 鏡が丘特別支援学校 学校評価



令和6年9月2日～10月4日実施

令和7年2月



沖縄県立鏡が丘特別支援学校

〈令和6年度 学校評価 教職員用〉

◎：当てはまる ○：ある程度当てはまる △：あまり当てはまらない ×：当てはまらない

n=150（回答率100%）

	No	必須	評 価 項 目	評価欄 %			
				◎	○	△	×
学校経営	1	○	児童生徒一人一人の「自立と社会参加」を目指し、学校教育目標や学部の教育目標を意識しながら教育活動を行っている。	41.3	57.3	0.7	0.7
	2	○	職員の協働体制のもと、円滑な学校運営がなされている。	51.3	46.7	1.3	0.7
教育課程・学習指導	3		学習指導要領を踏まえた教育課程を編成し、教科指導の充実、目標・指導・評価の一体化が図られている。 ▶学習指導要領を踏まえた教科指導の充実について教育課程編成委員会で決定し、標準授業時数に準拠した教科時数の設定、教科別指導への移行が行われました。	41.6	54.7	2.9	0.7
	4		各教科の系統性ある個別の指導計画が作成され、小中高一貫した学習の積み上げがなされている。 ▶児童生徒の学習の履修・習得状況を記録した「学びの履歴チェックシート」を小中高共通で導入し、履修・習得状況に応じた指導計画作成に取り組んでいます。	32.8	60.6	5.8	0.7
	5		児童生徒個々の実態を踏まえた授業の目標・活動設定や支援に努めている。 ▶4「学びの履歴チェックシート」を活用し、実態に応じた目標設定を行っています。また今年度校内研究で、ICTの児童生徒の実態を踏まえた活動内容の整理に小中高職員で取り組んでいます。	45.3	50.4	3.6	0.7
	6		情報機器の整備・充実により教育情報化を推進し、ICTの教育活用に努めている。 ▶iPadや電子黒板等の活用や、Teams等クラウドを用いた課題プリントの配布等、ICTの授業活用が行われています。	47.4	46	6.6	0
	7		社会に開かれた教育課程の実現に向け、交流や外部人材の活用を含め、地域や他校・企業・外部機関と連携・協働した学習活動が行われている。 ▶今年度もユニクロと連携した総合学習や他校との共同学習が計画されています。	41.6	54	4.4	0
キャリア教育	8		「鏡が丘 育てたい力」を踏まえ、キャリア教育の視点を取り入れた授業や就業体験等の充実を図り、小・中・高・寄宿舎の連携を図り、一貫したキャリア教育を行っている。 ▶昨年度から高等部だけでなく中学部にも校内就業体験を導入。卒業後の進路とそこで必要になる力について全職員が共通理解を図れるよう、進路指導部による校内研修を実施。	40.1	56.2	3.6	0
	9		学校は進路部を中心に進路講話や進路だよりなどを通して、将来の進路や職業などについて必要な情報を提供をしている。 ▶進路講話の対象を全学部保護者に拡大。早期から卒業後を見据えてもらえるよう情報発信を行っています。	59.1	40.1	0.7	0
人権	10	○	児童生徒の人権を侵害するような言動にならないよう気を付けている。 ▶全体終礼でのコンプライアンス研修等を通して注意喚起を図っています。	73.3	25.3	1.3	0
	11		日頃より、いじめの実態把握に努め、児童生徒が発する危険信号を見逃さないようにしていじめの早期発見に務めている。 ▶日頃の児童生徒の様子観察はもちろん、生徒指導部によるいじめアンケートで、いじめの早期発見に務めています。	63.8	32.6	3.6	0

舎	12		自立と社会参加を目指した魅力ある寄宿舎教育が行われている。 ▶舎生が充実した舎生活を送れるよう寄宿舎行事の工夫と充実に取り組んでいます。（詳しくは寄宿舎LINE参照）。舎生の自立を図る「トライ週間」も設定しています。	64	33.8	0.7	1.5
	13		学部と寄宿舎が舎生の自立と社会参加に向けて情報共有を図り連携している。 ▶普段の引継ぎだけでなく、保護者面談に寄宿舎指導員も同席することで、学部・寄宿舎が舎生の自立と社会参加に向けて普段の指導・支援の共通理解を図っています。	63.2	36	0.7	0
保健・安全	14		児童生徒が健康な生活を送れるよう、保護者との情報共有や保健室との連携が図られている。 ▶保護者から得られた児童生徒の健康状態・体調に関する情報を保健室と共有するとともに、学校で体調不良等の場合はすぐ保健室と対応を協議し、保護者に連絡しています。	79.6	20.4	0	0
	15		医療的ケアが安全かつ確実に実施できる体制がとられ、医ケア児の健康管理と安全対策に努めている。 ▶昨年度から朝の4者チェックが確実に行われるよう体制を改め、医ケア児の健康管理を強化しました。また、医ケア児の対応について必要に応じて学校医の助言を得るとともに、主治医面談に養護教諭が同行するなどして、安全な実施のための情報収集と確認を強化しました。	78.1	21.2	0.7	0
	16	○	○児童生徒が安全安心な学校生活を送れるよう、定期的な清掃、整理整頓、危険物の除去、迅速な修繕等、学習環境の安全確保に努めている。 ▶分担区清掃、定期的な校内美化作業に加え、週番による安全点検を実施。修繕が生じた箇所については迅速な対応に努めています。	61.3	36	2	0.7
	17		事故防止のため、歩行・車椅子操作等の介助・支援方法や、ヒヤリハット事例が共有されている。 ▶新職員を対象とした安全な車椅子操作に関する研修、全職員を対象とした安全な移乗に関する研修を実施。ヒヤリハット事例は学部終礼で共有することで再発防止に努めています。	66.2	31.6	1.5	0.7
	18		給食(舎食)は、児童生徒が食べやすい食形態等で提供されている。 ▶給食は普通食を含め4つの食形態を準備して提供しています。	84.6	15.4	0	0
服務	19	○	法令と服務規律を遵守するとともに、児童生徒・保護者・同僚に対する言葉遣いや態度に気を付けている。 ▶事務室の適正な事務処理、学校取扱金検討委員会を経た学校取扱金の適正処理に務めるとともに、服務等について定期的なコンプライアンス研修、Teams等による注意喚起を行っています。	71.3	26.7	1.3	0.7
保護者連携	20		保護者や福祉等の関係機関と連携し、自立と社会参加に向けた長期的な視点で児童生徒の個別の支援計画（舎生は個別の生活指導計画）を作成している。 ▶4月の保護者面談において児童生徒の教育的ニーズを把握し、長期目標を含めた個別の支援計画を策定しています。また定期的に福祉関係者同席の支援者会議に担任・支援部が参加し、保護者・福祉関係者と情報共有を図りつつ、児童生徒に必要な支援について共通確認を行っています。	71.5	28.5	0	0
	21		学校はおり、マチコミメール、公文等で必要な情報を保護者に適切に伝えるとともに、学校ホームページ等を通して学校の教育活動を発信している。 ▶今年度からマチコミ等の積極的な活用による情報発信を図っています。	69.3	30	0.7	0
働き方	22	○	同僚・管理職との良好な人間関係の構築ができています。	56	41.3	0.7	2
	23	○	個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができています。	26	46	22.7	5.3
	24	○	一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができています。	50.7	48.7	0.7	0
	25	○	より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	44.7	49.3	5.3	0.7
	26	○	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができています。	33.3	53.3	10	3.3

〈令和6年度 学校評価 保護者用〉

◎：当てはまる ○：ある程度当てはまる △：あまり当てはまらない ×：当てはまらない ?：わからない

n=42（回答率40.4%）

	No.	評 価 項 目	評価欄 %				
			◎	○	△	×	?
保護者との連携	1	学校はお便り、ホームページやマチコミメール、公文等で必要な情報を適切に伝えている。 ▶今年度からマチコミの積極的な活用による情報発信を図っています。	76.2	16.7	2.4	2.4	2.4
	2	学校は子どもの学習の様子や内容を連絡帳・面談・学級(学年)通信、授業参観の実施等を通して適切に伝えている。	76.2	19	2.4	0	2.4
	3	学校は保護者が子どもの様子について連絡・相談したことについて適切に対応を行っている。	78.6	21.4	0	0	0
	4	あゆみ・通知表は、子どもの学習の様子を適切に評価し、伝えている。	78.6	14.3	2.4	0	4.8
	5	学校は卒業後の進路や職業などについて参考となる情報を提供している。 ▶今年度から進路講話の対象を全学部保護者に拡大して実施しています。	64.3	23.8	0	0	11.9
	6	「個別の教育支援計画」は、子どもの実態を適切に把握し、自立と社会参加に向けた長期的な視点で作成されている。	83.3	16.7	0	0	0
指導・支援	7	子ども一人一人に応じて、丁寧に適切な指導・支援をしている。	85.7	14.3	0	0	0
	8	授業は子どもの実態に応じた目標設定のもと、子どもが主体的に学べるよう学習活動や必要な支援が工夫されている。	81	19	0	0	0
	9	教師は子どもの指導・支援の向上と授業改善のために、研修等を通して専門性と資質・能力の向上に努めている。 ▶職員を対象に医ケア、摂食、安全な介助、救急法、ポジショニング、自立活動、卒業後の進路、保護者理解、教科指導と評価、ICT機器活用等の各種校内研修を計画実施しています。また今年は校内研究として、子どもたちが小中高を通して系統的な学びを確実に積み上げられるよう、学習活動の整理と改善に取り組んでいます。	78.6	19	2.4	0	0
	10	子どもは学校に行くのが楽しいと言っている。 (学校に行くのが楽しそうである)	64.3	31	0	0	4.8
地域連携	11	学校は、交流や外部人材の活用を含め、地域や他校・企業・外部機関と連携・協働した学習活動を行っている。 ▶当山小、沢岨小、伊是名中、浦西中、首里東高、沖縄工高等のとの交流学习、ユニクロとコラボした総合学習、スクールカウンセラーによる道徳授業等に取り組んでいます。	54.8	31	0	0	14.3
保健安全	12	学校は子どもが健康な生活を送れるよう、保護者との情報共有や連携を図っている。	85.7	14.3	0	0	0
	13	学校は、子どもが安全安心な学校生活を送れるよう、安全教育や避難訓練、学習環境の安全確保に努めている。 ▶交通安全教室、火災・地震避難訓練、不審者避難訓練、緊急時シミュレーション、救急法や安全な介助に関する研修を実施。普段の清掃、全職員による定期的な校内美化作業、毎日の安全点検を実施しています。	76.2	9.5	0	0	14.3
	14	給食(舎食)は、子どもが食べやすく栄養を考えて提供されている。 ▶実態に応じて4形態の給食を準備・提供しています。アレルギーのある子どもには除去食・代替食の提供を行っております。	66.7	11.9	0	0	21.4
会計	15	学校の徴収金等は、使途が明確にされており、適切に会計処理が行われている。 ▶県の私費会計マニュアルに準拠し会計処理を厳格化しています。担任のみならず会計係、部主事、管理者によるチェックを行い適正な処理に努めています。また、公正・公明な会計処理のために、学校取扱金検討委員会を開催し適正な処理方法について検討と点検を行っています。	81	9.5	0	0	9.5

〈令和6年度 学校評価 児童生徒用〉

◎：当てはまる ○：ある程度当てはまる
△：あまり当てはまらない ×：当てはまらない ?：わからない

N=18

	NO	アンケート項目（こうもく）	◎	○	△	×	?
学校や先生に関すること	1	学校に行くのが楽しい。	83.3	16.7	0	0	0
	2	友だちは優しく、仲良く過ごすことができる。	94.4	5.6	0	0	0
	3	学校では、いじめや暴力がない。	88.9	11.1	0	0	0
	4	先生は元気で明るい。	83.3	11.1	0	0	5.6
	5	先生の言葉づかいはいいである。	77.8	11.1	5.6	0	5.6
	6	先生は、よくほめてくれる。	94.4	5.6	0	0	0
	7	担任の先生の他にも、気軽に相談や話のできる先生がいる。	77.8	16.7	0	0	5.6
	8	(小学部)文化祭・運動会・宿泊行事などの学校行事は、楽しみである。 (中・高等部)学校行事(文化祭・運動会・宿泊行事など)は、いろいろな活動があり工夫されている。	88.9	11.1	0	0	0
	9	(小学部)児童会活動は、いろいろな活動があり楽しい。 (中・高等部)生徒会活動は、いろいろな活動や交流を工夫して行うことができる。	66.7	27.8	0	0	5.6
	10	学校はいいにそうじされていて、きれいである。	72.2	22.2	0	0	5.6
授業に関すること	11	先生方が教え方を工夫してくれるので、授業がわかりやすい。	94.4	5.6	0	0	0
	12	先生は、授業でわからないことをいいに教えてくれる。	94.4	5.6	0	0	0
	13	先生は、命の大切さや社会のルールについて教えてくれる。	94.4	5.6	0	0	0
	14	授業では、自分の考えをまとめたり発表したりする活動がよくある。	72.2	22.2	0	0	5.6
	15	授業では、友だちと話し合いや相談などをする活動がある。	66.7	16.7	0	5.6	11.1
	16	(小学部)授業では、実習や物づくり、実験などの体験学習があり楽しい。 (中・高等部)授業では、実習や物づくり、観察・実験などの体験学習がよく行われている。	77.8	5.6	5.6	0	11.1
	17	授業では、先生方がパソコンやiPadなどを使いながら説明したり、自分で使ったりしている。	77.8	16.7	0	0	5.6
	18	(小学部)自分の将来の夢や目標を考える時間がある。 (中・高等部)自分自身の将来を考える時間がある。(キャリアパスポートを活用している)	66.7	22.2	0	0	11.1
	19	校外学習や他校との交流、オンライン学習などがあり、内容も工夫されていて楽しい。	88.9	5.6	0	0	5.6
関する安全・健康・食生活	20	給食は栄養が考えられていて、おいしい。	94.4	0	0	0	5.6
	21	地震や火事などのときはどうすればよいか授業などで習い、よく知っている。	88.9	11.1	0	0	0
	22	感染症にかからないよう、手洗いなどをし、気をつけることができる。	88.9	11.1	0	0	0

令和6年度 学校関係者評価(学校評議員)【結果】

【評価方法】

各評価項目ごとに、下記の評価基準でチェックし評価をお願いします。

A	十分に適切な評価がなされている	C	あまり適切な評価になっていない
B	適切な評価がなされている	D	評価結果に対する検討が必要

1. 教職員の自己評価

	評 価 項 目	A	B	C	D
評価1	評価項目を適切に設定し、評価されているか。	2	3		
評価2	・前年度に比べ先生方一人一人が目標に向かい努力されている結果が適切な評価に反映されていると感じました。 ・評議員になってまだ日が浅いので、評価は難しいですが、運動会での先生方の準備は大変だったと思うと同時に、各生徒に合わせた競技だったと感激しました。 ・小中高舎職員の意識の違いから課題解決のヒントが探せるのではないかと思います。(アンケートの取り方・まとめ方) ・「学びの履歴チェックシート」の活用は、小中高舎の連続した指導につながると思う。チェック項目を作成することも大変だと思うが、日頃の授業につながるので継続して取り組んでほしい。 ・外部からのカウンセラーをする事を検討するのはどうでしょうか。(教育の専門の人)。現場経験がある人の方がいいのでは。 ・働き方について、23番の個人の裁量の確保ができないことは、職員への研修や素材(便利なもの)を取り入れて皆のスキルアップをする事で、不安解消に繋がると思います。個々のスキルが上がる事で 個別支援会議の内容も密度の高いものになると思います。				

2. 保護者による評価・意見

	評 価 項 目	A	B	C	D
評価3	評価項目を適切に設定し、評価されているか。	2	3		
評価4	・保護者の方々も、しっかり先生方のがんばられている様子を見てくれるの評価になっていると思います。 ・保護者との接点も無いので評価は難しいですが、送り迎えなど日常生活のサポートお疲れ様です！ ・小中高の各発達段階に応じて、評価も異なってくると思う。 ・14給食について評価の？が多いのが気になった。授業参観で給食の様子を参観してもらい、課題解決のヒントを求めてほしい。 ・個別の教育支援計画と個別の支援計画(福祉関係利用)の内容を見比べてほしい。保護者の想いが把握できると思う。 ・予定変更などがあれば保護者の意見を聞いた上で決定してほしいです。(訪問の授業時間変更やPTA行事など) ・救急法の研修とかがあったら保護者も一緒に参加できる形だったらいいと思う。参加したい保護者もいるみたいです。 ・23番の個人の裁量(ゆとり)の確保がなかなか取れないことについて、専門性の高い職場であるので、研修や使える(便利な)素材を利用する事で各々のスキルも上がり、23番や26番について先生達も安心して対応が出来ると思います。 ・5番11番14番について、？が多いという事は不安に思っているのかなと思いました。どちらも、卒業後に繋がることかと思ひます。日頃から将来を見据えた活動や支援を取り入れ、家族にも見える化し家族を巻き込みながら結果をお伝えしたいことも必要かと思ひました。				

3. 児童生徒の評価・意見

	評 価 項 目	A	B	C	D
評価5	評価項目を適切に設定し、評価されているか。	3	2		
評価6	・どの生徒も顔が明るく、笑顔が良い。 ・児童・生徒さん達も先生方のご指導のもと、楽しく学校生活が送れている様子が評価でわかりますね。 ・「学校に行くのが楽しい」が高評価をあげており、実態に対応した指導や関わりが功を奏している。保護者にとっても児童生徒にとっても一番大切なことである。 ・幅の広い実態に優しい心をもって対応していることに感謝します。 ・高校卒業に向けてプレッシャーのないように生活してほしい。(「頑張れ！」は、プレッシャーになるみたいです。)				

令和6年度 学校評価及び各アンケート分析と考察

沖縄県立鏡が丘特別支援学校

I はじめに

学校評価は、本校の教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的としている。また、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携・協力の強化を図ることも、学校評価の重要な目的である。

本校では9月～10月に学校評価を実施し、その結果を分析した上で、教育活動ならびに学校運営の改善に活用している。

II アンケートの概要

1 教職員による自己評価及び保護者・児童生徒のアンケートの概要

今年度は学校長の学校経営方針で定めた重点目標の達成状況を評価し、その結果を受けて必要に応じて改善を行うことで、学校経営方針の具現化と重点目標の達成を図る観点から、学校評価の評価項目を学校経営方針の重点目標に即して設定した。昨年度、「各学部・管理職」、「寄宿舍」、「事務現業部」に分け、それぞれ評価項目を設定して実施した教職員による自己評価アンケートを、今年度は全教職員統一の評価項目に改め、その中で必須回答と任意回答の設問を用意することで、より学校経営方針と重点目標の達成状況に焦点化して評価できるようにした。

関連して、教職員を対象とした自由記述アンケートでは、重点目標を達成するために強化した方がよい取り組みや新たなアイデアを募った。

また、働き方改革の取組状況を自己評価するため、「沖縄県公立学校における働き方改革推進計画」に示された「働きやすさ」「働きがい」「心身の健康」といった「3軸・6視点」を評価項目に盛り込んだ。

昨年度より、教職員による自己評価アンケートならびに保護者を対象としたアンケートは、記名式で行うようになったが、アンケート集約者＝主幹教諭以外は回答者がわからないよう匿名性に配慮して集計している。

2 アンケート集計について

教職員のうち管理職、各学部教員、寄宿舍指導員、事務現業部職員（会計年度任用職員含む）150名に記名式のアンケートを依頼し、回答を得た。（回収率100%）。また各学部の保護者104名に記名式のアンケートを依頼し、42名から回答を得た。（回収率40.4%）。尚、今年度から教職員対象のアンケートに加えて保護者対象のアンケートも全てFormsにて回答・集計を行っている。

児童生徒については、小学部から高等部までのⅠ課程・Ⅱ課程Aの児童生徒に加え、回答できる児童生徒18名にアンケートを実施（必要な児童生徒については教師が設問を説明）し、全員から回答（回収率100%）を得た（表1）。

表1 アンケート対象者と回答率

アンケート	対象	人数	回数数	回収率
教職員	管理者、教員、寄宿舍指導員、事務現業職員等	150	150	100%
保護者	小・中・高等部児童生徒保護者	104	42	40.4%
児童生徒	小・中・高等部Ⅰ課程・Ⅱ課程A・回答できる実態の児童生徒	18	18	100%

Ⅲ アンケートの分析及び考察

アンケート結果（パーセンテージ）より「◎当てはまる」と「○ある程度当てはまる」を良好な評価（以下、「良好な評価」とする）とし、「△あまり当てはまらない」と「×当てはまらない」を検討の必要な評価（以下、「検討が必要な評価」とする）とする。アンケートの集計結果をもとに今年度の学校運営の状況と関連付けて分析・考察を行う。

1 高評価と捉えられる項目

（1）教職員対象アンケート（◎「当てはまる」が7割以上）

- ・児童生徒が健康な生活を送れるよう、保護者との情報共有や保健室との連携が図られている。79.6%
- ・医療的ケアが安全かつ確実に実施できる体制がとられ、医ケア児の健康管理と安全対策に努めている。78.1%
- ・給食(舎食)は、児童生徒が食べやすい食形態等で提供されている。84.6%
- ・法令と服務規律を遵守するとともに、児童生徒・保護者・同僚に対する言葉遣いや態度に気を付けている。71.3%
- ・保護者や福祉等の関係機関と連携し、自立と社会参加に向けた長期的な視点で児童生徒の個別の支援計画（舎生は個別の生活指導計画）を作成している。71.5%

医療的ケアの安全な実施に向けて、昨年度より体制を強化してきたことについて、概ね良い自己評価となっている。今後もいっそう安全で安心な実施に向けて体制を整えていきたい。

（2）児童生徒対象アンケート（◎「当てはまる」の割合が高かった主な項目）

- ・学校に行くのが楽しい。83.3%
- ・友だちは優しくて、仲良く過ごすことができる。94.4%
- ・学校では、いじめや暴力がない。88.9%
- ・先生は、よくほめてくれる。94.4%
- ・先生方が教え方を工夫してくれるので、授業がわかりやすい。94.4%
- ・先生は、授業でわからないことを丁寧に教えてくれる。94.4%
- ・先生は、命の大切さや社会のルールについて教えてくれる。94.4%
- ・給食は栄養が考えられていて、おいしい。94.4%

児童生徒による評価は概ね良好である。特にわかりやすく丁寧な授業に関して良い評価を得ている。引き続き一人一人に応じた丁寧な指導・支援に努めていきたい。

（3）保護者対象アンケート（◎「当てはまる」の割合が高かった主な項目）

- ・「個別の教育支援計画」は、子どもの実態を適切に把握し、自立と社会参加に向けた長期的な視点で作成されている。83.3%
- ・子ども一人一人に応じて、丁寧に適切な指導・支援をしている。85.7%

- ・授業は子どもの実態に応じた目標設定のもと、子どもが主体的に学べるよう学習活動や必要な支援が工夫されている。81.0%
- ・学校は子どもが健康な生活を送れるよう、保護者との情報共有や連携を図っている。85.7%
- ・学校の徴収金等は、使途が明確にされており、適切に会計処理が行われている。81.0%

保護者による評価も概ね良好である。児童生徒に応じた丁寧な授業や指導・支援に対し良い評価をいただいたと考える。また健康面に関する情報共有に関しても好評価を得ることができた。会計処理に関しては、昨年度まで「？」が多かったが、今年度は良い評価を得ている。

2. 評価が低めであった項目

(1) 教職員対象アンケート（△「あまり当てはまらない」×「当てはまらない」が2割以上）

- ・個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができていない。28.0%（◎肯定的評価72%）

(2) 児童生徒対象アンケート（△「あまり当てはまらない」×「当てはまらない」が2割以上）

- ・なし

(3) 保護者対象アンケート（△「あまり当てはまらない」×「当てはまらない」が2割以上）

- ・なし

(4) その他

保護者対象アンケートにおいて、「給食（舎食）は、子どもが食べやすく栄養を考えて提供されている。」の項目について、「わからない」とした回答が21.4%であった。

働き方改革に関するアンケートは、個人裁量の時間確保に関する項目のみ、肯定的評価が8割を割り込み、否定的評価が30%弱であった。学校給食に関しては、児童生徒、教職員による評価が高かっただけに、普段給食を目にする機会の少ない保護者への情報提供をさらに増やす必要がある。

3. 自由記述から

(1) 教職員対象アンケート

緊急時対応のさらなる強化、業務の削減など働き方改革に関する事、職場での人間関係に関する事などの意見があり、職員会議で回答した。

(2) 児童生徒対象アンケート

休み時間に関する意見があり、別紙にて回答した。

(3) 保護者対象アンケート

学校の設備に関する意見、訪問教育に関する意見があり、別紙にて回答した。

IV 学校評議員による助言

- ・肢体不自由校だから発達障害の相談を受け付けていないと地域の学校が誤解していないだろうか。発達障害等に関しても相談も担っていることを発信していくことが必要ではないか。
- ・肢体不自由の人でも、スマホを操作できれば緊急時に助けを求めることができる。緊急時の活用法を含め、モバイル操作について学校でも教えていく必要があると感じる。
- ・就業生活体験では保護者がいない状況も生徒に体験させるのが効果的ではないか。
- ・（保護者として）看護師がいる生活介護事業所を探すのに苦戦している。引き続き進路先の情報提供をお願いしたい。
- ・卒業後の就労では移動とトイレ介助がネックとなっている。最近はリモートワークもできるようになってきているが、卒業後の就労や生活を見据えた学校教育を期待する。
- ・当事者の声を聞くことが大事。当事者による研修を実施してもよいのではないか。

- ・人手不足の昨今にあって、今まで特別支援学校関係とあまり関わりのなかった意外な業界でも肢体不自由のある人も雇用したいという企業がある。生徒と企業とどうマッチングさせるかが課題。一つ事例ができれば、後続が期待できる。
- ・老朽化した寄宿舎の施設設備環境の改善を望む。
- ・働き方改革のアンケート良好。個人裁量時間の確保に関しては、来年度の学校評価で改善を期待。管理者も職員も心身の健康を。

V 改善に向けて

ここでは、評価が低かったアンケート項目や、自由記述の結果・要望等の中から、本年度の重点目標を実現する上で、特に改善が必要な点を中心に上げる。尚、保護者自由記述に対する、対応等については別に回答した。

1. 児童生徒が明るく快適で安全な学校生活を送れるような教育環境の確保

方針	校舎の保清に努め、老朽化や故障など設備の修繕が必要な箇所について迅速な対応を行う。
改善方法	・教職員による定期的な校舎設備点検、用務員等による修繕 ・教員業務支援員による毎日の清掃（令和6年10月より導入） ・教室棟・管理棟の大規模改修工事（空調）（令和7年予定） ・校舎の長寿化改修工事に向けて実施設計開始 ・体育館・寄宿舎防水改修工事設計開始 ・土砂災害を防ぐための校舎裏法面強化工事（令和7年予定） ・寄宿舎・運動場へ向かう道路の修繕（令和7年予定）

2. 児童生徒が安全に安心して学校生活を送るための体制強化

方針	県の医療的ケアマニュアル等に準拠した安全な医療的ケア体制の継続、普段の事故予防、緊急時対応能力の強化を図る。
改善方法	・医ケアに関する医師の指示を明確にするため指示書の様式を改善 ・医ケアの内容や実施方法に関してこまめな学校医相談を行い、助言を仰ぐ ・医ケア新規申請に対する速やかな医ケア小委員会開催、継続申請に対する前年度末審議で慎重を期しつつもスムーズな医ケア開始を図り保護者の負担を軽減 ・人工呼吸器を必要とする児童に対する安全な医ケア体制の整備 （段階を踏んだ体制づくり、看護師・教員を対象とした人工呼吸器に関する校内研修） ・各学部での緊急時シミュレーション訓練の実施。PDCAサイクルによる改善。 ・日時を伏せて行うブラインド型避難訓練の実施により、緊急時の課題発見とPDCAサイクルによる対応方法の改善。緊急時における教職員・児童生徒の対応能力を強化。 ・緊急持ち出し袋の準備

3. SDGs な働き方改革

方針	教員が教育の充実と改善に取り組むための時間を確保するため、業務の効率化・合理化を図る。
改善方法	・教員業務支援員の配置（教員が行っていた清掃業務の一部を代行）（令和6年10月～） ・年度初めに14：15下校の研修期間を設定。 ・PTA会計専従職員の導入（教員が行っていたPTA会計業務を代行）（令和6年～） ・Teamsの活用による会議や連絡会（終礼）等の時間短縮、連絡の効率化 ・校内研修のオンデマンド・コンテンツ化により、研修企画・準備時間の削減 ・行事のもち方の見直しと合理化（例：周年行事の簡素化、保護者向け進路説明会、職員向け進路研修、進路先見学を一つにした説明会・研修を企画） ・夏季休業期間中の時差出勤の導入（令和6年～） ・教科専科の導入、学習グループの再編（小学部） ・学期末反省において、教職員から働き方改革のアイデアを募集 など

4. 教職員のコンプライアンス意識の醸成・良好な同僚性の構築

方針	信頼される学校・信頼される教職員を目指し、教職員のコンプライアンス意識の再徹底を図るとともに、良好な同僚性の構築を促す。
改善方法	・コンプライアンス研修の定期的な実施。 ・管理職から全体終礼等で定期的に注意を行うほか、各学部終礼や寄宿舎部会等においても定期的に注意喚起を行う。 ・良好な人間関係構築のための研修・ワークショップ等の実施。 ・スクールカウンセラーの活用。